

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	心身障害者等無料バス優待事業		担当部署	健康福祉部 社会福祉課	
総合計画体系			根拠法令計画など	鳴門市高齢者等無料バス優待券の交付等に関する条例、鳴門市高齢者等無料バス優待券の交付等に関する条例施行規則	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	昭和 49 年度
政策(中項目)	1	ひとにやさしく健康で安らげるまち なんと		終期	未定
(小項目)		障がい者福祉			
施策	5	障がい者福祉の推進			
基本事業	3	生活環境の整備充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 身体障害者手帳の1級から4級の交付を受けている者、知的障害者であって療育手帳の交付を受けている者、精神障害者であって精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	市内のバス路線を利用する心身障がい者に対し、無料バス優待券を交付することにより、障がい者の移動手段の確保、生活圏の拡大を図り障害福祉等の向上をめざす。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	市内のバス路線について、障がい者の移動手段を確保するため、バスの無料優待券を交付する。市内バス路線の全線において優待券の適用を継続する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者)	100	100	100	100	100	件

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	手帳の新規交付時等の際に、無料バス優待券についても情報提供し、申請を促す。					
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
	指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標	1						
	2						
成果指標	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者)	93	94	-	-	-	件
	目標達成率(実績/目標)		94.0	-	-	-	%
今年度の進捗状況	ほぼ計画どおり	事業全体の進捗状況			-		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	860	860
		全体予算額	0	0	0	0	947	947
		決算額	0	0	0	0	947	947
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費	
		0.2		405		1,352		

事業費推移	年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度
	事業費	828	947	949	949	949
	うち一般財源	828	947	949	949	949
	人件費	402	405	405	405	405
	総事業費	1,230	1,352	1,354	1,354	1,354

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	A:有効性があった		障がい者の移動手段の確保、生活圏の拡大を図るとともに、経済的負担の軽減にもつながっている。
	効率性	A:効率的だった		
②成果に対する評価	指標名	鳴門市高齢者等無料バス券申請件数(障がい者)		目標数は下回っているが、市内バス路線を移動手段として必要とされる方のニーズは満たせていると判断している。
	目標	100	件	
	実績	94	件	
	評価	B:概ね目標を達成できた		
③総合的な評価		A		前年度から継続して、市内バス路線の全線での適用を実施できており、障がい者の移動手段の確保等の目的を達成できている。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	高齢化の影響もあり、平成26年度中に無料バス優待券の対象となる各手帳の交付を受けた方(185名)の中でも、すでに70歳を越えておられる方も多く(71名)、70歳以上の要件で無料バス優待券を所持されていると思われる方もいることから、今後も飛躍的な交付数の増加は望めない状況にあるが、必要とする方には確実に交付できるよう窓口等での案内を継続していく。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	障がいのある人が地域で安心していきいきと暮らしていけるよう、継続して、必要とする方に移動手段の確保を行う。			
	H28年度	同上			